資料３

富山県並行在来線
利用促進策の検討資料

平成２５年６月３日

富山県並行在来線利用促進協議会

1　駅舎の利活用

○基本的な考え方

・駅舎は鉄道利用者のみならず、地域住民が気軽に立ち寄れる場所。駅周辺を中心とした街づくりの拠点。

・三セク会社は、沿線市町村と連携し、効果的な利活用策を推進。地域住民に、駅でのイベント開催時の協力や駅周辺の美化、清掃等への参加の呼びかけなどにより、駅への集客力をアップ。

○先行事例

①利便性の高い施設の設置　・・・観光案内所（青い森鉄道）、カフェ　など

②イベントの開催　・・・バザーやコンサートの開催（しなの鉄道）、駅舎で地元農家の方による産直（ＩＧＲ）　など

③地域団体との共同活動の推進　・・・住民による駅の花壇整備（青い森鉄道）　など

○効果的な推進に向けて（三セク会社等）

・ 駅毎に特色等を踏まえ有効な活用方策について検討

・ 駅の管理方法等も勘案しつつ、費用対効果や実現のための課題等を整理

2　地域住民、企業、団体による支援の推進

○基本的な考え方

・地域の住民や企業、団体による並行在来線への支援活動を促進し、並行在来線を地域で支えていく体制を確立する。

・並行在来線に対する地域住民にマイレール意識の醸成のほか、利用促進、三セク会社への支援につなげる。

○先行事例

①鉄道沿線の企業・学校・団体等の協力による環境美化・・・富山ライトレール　など

・沿線の企業、学校、団体等の協力を得て、電停の清掃活動、花壇整備、継続して活動している協力団体を表彰

②サポーターズクラブの設置・・・えちぜん鉄道（えちてつサポーターズクラブ）　など

・会費制で広くサポータを募集し、乗車割引サービスなどを行うほか、一部を各地域の協力団体の活動費に支援

③応援団の組織化　・・・ひたちなか海浜鉄道（おらが湊応援団）　など

・地域の商業者が中心となり、駅周辺マップの作成、地域住民や観光客へのイベントチラシ等の配布、参加呼びかけ

○効果的な推進に向けて（三セク会社）

・ 並行在来線が、自分たちの身近な鉄道であることを広く広報

・ 効果的なサポーターズクラブの仕組みなどを検討

3　アテンダントの活用

○基本的な考え方

・乗客へのおもてなしの一環として、日中のワンマン運転に併せ、アテンダントの配置を検討。

・アテンダントの業務として、①高齢者、障害者等の乗降補助、②周辺のイベントや観光案内などの車内アナウンス、③社内での乗車券の販売・回収、④駅構内での案内などを想定。

○先行事例

①県外　　しなの鉄道、青い森鉄道、ＩＧＲ、肥薩おれんじ鉄道、えちぜん鉄道　など

②県内　　富山ライトレール、富山地方鉄道

○効果的な活用に向けて（三セク会社）

・ アテンダントの有効活用策を検討

・ アテンダントに求められる資質、技能など踏まえ研修を実施

4　県内交通機関の連携

○基本的な考え方

・他の鉄道会社やバス会社等との連携を図り、マイカー等に頼らない輸送体制や交通アクセスの向上を図る。

・乗り継ぎしやすいダイヤ設定、共通きっぷ・企画きっぷの販売、乗継割引の導入などについて協議を進める。

○先行事例

他の鉄道会社やバス会社等と連携した割引切符

①並行在来線とＪＲ線を乗り継いで利用できる割引切符の販売（ＩＧＲ、肥薩おれんじ鉄道）

②タクシー会社と連携し、鉄道利用者の病院までのタクシー料金を割引（ＩＧＲ）

・・・通院利用者向けの割引切符（あんしん通院きっぷ）の利用者が、駅から病院までのタクシーを割安に利用可能

③施設利用券とのセット切符（しなの鉄道など）・・・温泉施設入場券と往復乗車券を割引価格でセット販売

○効果的な連携に向けて（関係事業者）

・並行在来線のみならず、県内の公共交通の活性化や利用促進に結びつける

・乗継ダイヤは、利便性等を勘案しつつ、関係事業者と協議を進める